

# ハワイの淨土宗

井 川 定 慶

## 一、移民百年記念

ハワイは西曆六世紀頃から存在を認められ十一世紀に入つてポリネシア人が大舉して移住し生計を立て初めている。一七七八年一月十八日に英國のキャプテン・クックといふ冒險航海師がハワイに上陸しているが、彼は更に遠く北米アラスカまで渡り其の歸りに再び立寄つたところ折からの原住民酋長同志の争ひに巻き込まれてあえない最期を遂げている。其の頃カメハメハ大王が大いに勢力を揮つてあちこちの戦いに勝ち一七九五年に統一の大業を立てハワイは平靜になり一八一九年大王が命終す

るも王朝は其後連綿するのである。ハワイのあちこちに大王の戦勝記念碑が建てられて顯彰を今に傳えている。ところで一八六八は明治元年に相當する。ハワイはもと／＼暑熱と雨量に恵まれて砂糖キビが盛んに繁茂し、現在でも主要な収益とされ、第二位がパイナップル製産であるが何れも栽培に人手を要するところから日本に向つて移民を奨勵して來たところ、其れに應じて渡航するものがあつた。此れが即ち「明治元年もの」と稱せられる人々である。當時は柳行季一つ或は風呂敷包み一つを提げた男たちばかりで極めて殺風景な小屋生活であつた。何ら精神的慰安がなく、宗教とても求められないままに暇さえあれば酒を飲むか博奕をうつ有様であつた。待遇

も労働條件も悪く榮養失調で亡くなると穴を掘って遺骸を埋める。居合せた同僚が手を合せてお念佛を稱えれば切めてものお弔いといふ。別に宗教儀式も行はれず、其の後の墓参をする者としてない殆んどが無縁佛で終っている。こんな氣の毒な人々の墓がハワイのあちこちに散在しているのである。ところが昨年が明治百年に丁り、日本人移民百年にも相當するといふので、ハワイ佛教各派が協議して慰靈行事を營まうと考へ、ホノルル市内にあるモイリリ墓地へ各地の無縁墓地から一握りの土を持ち寄り、墓地協會から土地の提供をうけ、そこに慰靈塔を建設することに決めた。其の標題を従來の例に倣つて「三界萬靈塔」といふ議もあつたが誰にも分り易く「同胞先亡慰靈塔」と命名し、石碑も五輪塔とか寶篋印塔でない新しいものをといふことに話が進み、淨土宗ホノルル別院駐在の開教使河合了勝君にデザインを委嘱した。河合君は米本土の大學で建築美術を専攻している特技者である。表ての題字の揮毫は内閣總理大臣佐藤榮作氏に頼んだ。此の塔をつくつた趣旨を左と右との兩袖に日本文と英文とに書きわけられた。

其の文に云く

日本人移民百年の歩みを顧みて想い新たに

吾が同胞の艱難努力を偲び謹んで

今は亡き人々の靈にこの塔を捧ぐ

一九六八年六月一日

想へば今日ハワイに於て日本人及び日系が全人口の約半數を占め政財界に於ける勢力も拔群である。現に國會議員の上院二名、下院二名の中の三人までが日系人であり、ハワイに於ける郡參事長(市長)四名の中一人が日本人(淨土宗の信者木村春一氏)といふ現状である。尤も今次太平洋戦争を契機としてアメリカに於ける日本の地位が急激に上昇したのではあるが其の根源はといへば物心兩面に非常な艱苦に堪え忍んでハワイの産業に助勢した初期渡航者の功勞をたたえ、その靈を慰めて聊かなりと報恩の誠を表はすのが在留日本人のつとめと考へられたからである。石材は日本の岐阜縣關ヶ原から御影石をとりよせて立派に彫成せられ、六月一日佛教各宗代表が參列して靈塔前で官民大衆が集り盛大な法要が營まれた。恰かも常陸宮並に同妃兩殿下が御來布中であつて、

そこへ盛花を捧げて頂いたことは全く文字どほり錦上更に花を添える状態であつたといふ。

靈塔建設の費用七二〇萬圓は佛教各宗が分擔して一ドル獻金を二萬口集めており、この聖業にはハワイ全島を擧げて讚歎し拍手を送つたわけである。

## 二、ハワイ開教

ハワイ淨土教團の本部は現在オアフ島のホノルル市マキキ街一四二九にあり「淨土宗別院」と稱し現在の開教總長藤花道師が統率し常在の開教使三名の他、囑託として元開教總長、開教使など三名が附近に居住されている事ある時に別院に召されて法務を助けている。またオアフ、カワイ、ハワイ、マウイの四島に十五の支部（淨土院）があり總數二十二名の開教使が夫れゝ活動せられてゐる。その何れもが婦人會、青年會を組織しており、日曜學校と日本語學校とを經營して教學二途に亘つて貢獻しているし、ラジオを通じ、文書を以て廣汎に大衆へ呼びかけてゐる。

然し上述の如く明治初年に渡布した日本人は大きな夢を抱いていたが何分にも勞働者の一ヶ月の給料は僅かに十三ドル五千セントだつというから、奴隸に等しいもので忍従に忍従を重ねていた彼らに心の糧が必要であつたけれどもなかなかえられなかつたのである。

漸く明治二十二年になつて大分縣の眞宗僧侶曜日蒼龍師が單身ハワイの地へ踏み入つて個人の意思で布教が始まり此れが礎石となつて西本願寺派の正式開教が明治三十年（一八九七）から始められたものである。

その頃淨土宗でもハワイへの開教を考えられ道重信教師（後の大本山増上寺法主）や白石堯海師らが有志と共に東京に『ハワイ宣教會』を組織して先づ松尾諦全師を派遣してハワイ全島の状況を視察させた結果、海外布教の急務なることを認めここに於て淨土一宗の事業としてハワイを正式に開教區と定め特派布教使に岡部學應師を選んで赴任せしめたのが、淨土宗開教使の第一號であると同時に、各宗各派を通じて正式に本山から派遣されて來た佛教開教使の第一號でもあつたわけで時に明治二十七年（一八九四年）の事である、以來、東西本願寺、日蓮

宗、曹洞宗、眞言宗と相次いで開教使をこの地に派遣し活發な布教傳道が開始されたのである。

就中、岡部學應師は山口縣の出身であるがマウイ島に於ける同胞を對象として布教の第一聲をあげ、ついでハワイ島に渡りヒロ及びハカラウ地方に布教の歩を進め、更に轉じてハマクワ地方に教線を伸ばしたのであるが、

此の地方に在任する日本人から大歡迎をうけ、信者は自發的に淨財を募つて本格的な「佛教會堂」を建立し入佛慶讚の大法要を舉行するまでに至つた。明治二十九年

(一八九六)一月「ハマクワ佛教會堂」と命名され佛教

各宗のものの參集する根據地となされたものでハワイに於ける日本佛教各宗の中で正式布教の結果出來た最初の佛教寺院である。其の後、第二世田中、第三世池田、第四世吉田、第五世日向、第六世荒、第七世山中、第八世榮久庵、そして第九世が榮久庵弟の各師と繼承されて今日に至っているが、現在のハマクワ淨土院を尋ねたとこの此の土地に日本人を集め開拓し其の土地を日本人の所有とせしめた日本人にとっての御恩の深い功勞者である

『後藤闢之墓』が淨土院の裏の可なり廣い墓域の中央に

築かれており、此の墓地は古くから日本人墓地として各宗の信者の多くの遺骸を埋葬せられていた。

本堂は可なり古びていたが「コア」といふ特異な木材でつくられた本尊の厨子や欄間(田中といふ人の作と傳う)が、ありし日の敬虔な信仰心を象徴しているように精魂をこめたものであつた。

近年まで淨土院の近くには五〇〇軒ばかり砂糖キビ栽培の家族が住んでいたのが、現在だん／＼他の地區に移住して三〇〇軒ほどに減つて來ている。そこで主任の榮久庵光丸師は傳道資金を得る一法として隣接の耕地にトマトの栽培を始め其のトマト(ハワイではトメトといふ)も品種改良を重ね、今やハワイ市場で「エクーアントメト」として特別高級品扱をうけているといふ。

さて岡部學應師のあと開教使が續々渡來し教線も次第に擴まつたところから此れを統一する必要に迫られ明治三十六年(一九〇三)三月淨土宗では清水信順師を開教使長に命じて赴任せしめた。これが淨土宗ハワイ開教總長の第一代である。清水師はハワイ島ラウパホエホエの教會(現在間宮敏雄師兼任で嘗ては佐山學順先生の所在)を

本部として教會所の事務を開始したが此の地は中央から離れて地の利を得ぬことを氣付かれた矢さきである。清水師より三年早く赴いていた伊藤圓定師がホノルルに傳道を開始してサウス街に布教所を建てていたが、そこへ清水師を迎えてラウパホエホエから移して開教本部とせしめたのが一九〇五年である。そして一九〇九年三月清水師の辭任に代つて伊藤圓定師が第二代總長に任ぜられたが、師は積極的で徹底した活動を續け遂に各宗に秀でた今日の淨土教團の基礎を固めた功勞者の一人なのである。かくて第三代久家慈光、第四代立川眞教、第五代井上照眞、第六代福田蘭正の各師と次第したが、福田師の時代に現在のマキキ街に三エーカーの敷地を購入し續いて殿堂の新築をなしたのが今日の淨土宗別院である。而して第七代窪川旭丈、第八代名護忍亮、第九代宮本文哲、第十代中島眞孝、第十一代稻垣眞我の各師とつゞき現總長藤花教道師が第十二代目の總長として昨年春就任して今日に至っている。

45  
ホノルル別院内の日本語學校には七・八歳の少年から高校生、そして六十歳の老人夫妻までの日系三、四世が

熱心に學習しているし、最近十二萬ドルを投じて新築された學生寮にはハワイ各地からホノルルの大學に學ぶ信者の男女學生が寄宿し宗教味豊かな楽しい雰圍氣の中で日々を送っており、親許では安心して別院總長を信頼して托している現狀である。

### 三、教會主任の仕事

昨年九月十二日の夜十時十分私は淨土宗海外特別布教師の辭令を頂いて日本移民百年記念慰問巡教としてホノルル空港に着いたが藤花總長、同令息、河合、山本兩開教使夫妻のお出迎えをうけた。丁度私の長女史子（モントリオール大學助教）が日本に於ける國際學術大會に參加し研究發表をすませて歸任するのと偶然にも一致し羽田空港から同行したので、私は長女と共にロビー脇のレストランでビールをぬいての歓迎をうけた。史子は一時間半して米本土へ出發、私ら一行は車を列ねて淨土宗別院に落つきここでまた小宴をはって頂いて寝についた。フト眼をさますと午前六時であった。喚鐘が鳴り響

き續いて大ぎん、木魚、讀經が二階の會場で勤行せられ、終つて私は總長手づからの朝食に招ぜられたが、「昨夜は随分おそくなりましたのに今朝は早くから感心ですね」と問いかけるに「私はどんなことが前夜にあつても朝は六時に必ず晨朝のおつとめをいたします」とのお答えであつた。藤花總長は就任間もなく夫人を亡くされ別院では末の令息とお二人暮しであるがなかく、律儀な生活であり河合、山本兩君を動かして、執務もテキハキされて淨土教團をよく統率されているのに感心した次第である。

朝の早いことといへばハカラウの淨土院間宮敏雄君は朝五時から勤行を初めるが、其の喚鐘の音を聞いて近隣の信徒が出勤前に参詣して來るといふ。ハワイ淨土教團の教會堂はかように朝早くから勤行せられている。

ハワイ淨土院で何かおつとめをするのは大抵午後五時半からである。其れは一般の勤務を終了してお寺に参詣してくれるよう、自動車の時間を餘裕に入れてゐるからである。寺でも葬式會社で行う葬式もやはり午後五時半すぎと聞かされた。

私が行つたというので秋の彼岸法要が各寺で營まれたが、午後五時半から特別の信者（役員）を交えての夕食會がもたれ、法要は其の後に一般参詣者を迎えて午後七時から約三十分、そして法話を三、四十分、終つて別に仕つらえた會堂（青年會とか婦人會に使用せられるクラブ式の會場）に於て参詣者と私ども來賓、開教使、同夫人家族ともく、テーブルについてパーティーを開く。その席で必ず婦人から私はレイをかけて頂いた。料理は婦人會が準備してくれている。獻立であるが、簡単なものもあつたが、開教使の夫人が指導してのなかく、凝つた料理も出された。ヒロの明照院での例によると飲み物としてジュース、ビール、ウイスキー、そして料理にはソーメン、ナマス、サラダ、ニシメ、チキン、バーベキウ、刺身、タコ、バラすし、赤飯や盛物（ブドー、エビ、桃）漬物といふ豪華版であつた。

私はカワイ島に於てカパア北島昌雄師、コロア浦上憲成師らの心つくして佛教各宗派開教使並に令夫人による歡迎パーティーを景勝地で特別に開催して頂いたが、その時の料理は御婦人達それ／＼の腕を揮つた料理のもちよ

りでビールを頂いたのであるが、ハワイでは前記の淨土院に於ても此のパーティでも残った料理を全部適當に分けて自分共がおみやげに持ち歸ることである。日本のお茶事の時のようであとに残肴をせないといふよい風習であり、お互の料理を交換しあつた親睦味も加つてよいことだと内心感動させられたことである。

ハワイ開教使は勤行の嚴重さと食事による親睦の外にいろ／＼と教化活動に工夫を凝らされている。

ハカラウ淨土院の間宮敏雄師は本堂の脇の青年會館に唐手道、柔道の道場を開いて青少年の心身鍛練に資せられているが、これが縁となつて今まで他宗の信者であつたものが淨土宗に轉入してくる家族が、漸次殖えてくるといふ。

大體ハワイでは教會の信徒は、何宗派所屬といふよりも、教會の主任先生の信徒らしい。されば開教使が立派に活動すればする程、信徒が増して行くが、其の反對に消極的な教會には少しづつ減少して行くといふ。

#### 四、ラジオと病院慰問

そこでラヂオ放送が必要となる。

藤花總長は毎水曜日三〇分間「水曜隨想」と題して時事問題をつかまえて宗教放送を行い三十數年間の連續、太平洋戰爭時を除いて四千百回に及んでいる。そして其れを「へちま説法」と題して刊行して文書傳道に資せられている。

ヒロ明照院の中村良觀師は毎金曜の朝「人生問題」といふ題で十五分間のラヂオ放送を續けられている。

それよりも特記すべきはプウネ淨土院の新保義道師である。此れは寧ろラヂオ放送のプロである。毎日午後一時三十分から三時頃まで奥様と一緒にワイルクの放送局へ出かける。ニュースや時事問題、宗教講話、讀書感想など、奥様の方は「日本に於ける人氣作家の小説朗讀」を二十分ばかり美しい聲で流される。尙ほ夜には「クイズもの」で『もしもし電話』『なぞなぞ』『二十の扉』『それは私です』といふのが人氣を博し放送を聴いてい

る『ラヂオ友の會』が結成せられて其れが新保師を通じてプウネネ淨土院を援助しているといふに至ってはラヂオ傳道効果百パーセントと云うべきである。

私は通りかかりの人のような立場ながら、藤花、中村、新保の三師が開係せられている放送局から或は十五分講演、三十分の對談ラヂオ放送録音をとつてもらつた。新保師は自分の擔當ラヂオ時間を利用して私のハワイ巡教案内や消息、そして法然上人のことも放送しておいてくれたのは私にとってよい旅路の想出となつてゐる。

開教使は絶えず信徒を歴訪するが、病院で療養している信者を慰問することに力める。もし怠つていて、他の教會教師に慰問せられると、信徒はそちらへとられてしまふらしい。

ハカラウの間宮師と一緒に私は病院を慰問し其れに隣接する養老院にいる老男老女に日本から來た淨土宗慰問使としてやさしい言葉をかけて廻つた。

ヒロ明照院の中村師とも同道して病院慰問をした。特信の一人は皮膚癌で重病であつたが今一人の婦人は富豪

で養生の爲めだといふ。私は中村君につれられて病室を尋ね夫れ々にお十念を授與して歸つたのであるが、後から二〇弗、二五弗といふ御菓子料を私に届けて頂いた。二五弗といえは邦價九千圓である。開教師が慰問して信徒の心をつかみ教會の援助者となすと共に偶まには心つけも届けられることらしい。

藤花總長の過去三十七年間の開教歴の中に「養老院慰問」による功績を逸するわけに行かない。ハワイでは妙に病院と養老院は隣接している。ホノルルのアキニ病院には約五〇〇人の療養者がいるが。開教使は湛然に慰問するが隣りの養老院にも足を伸ばしている。藤花師が初めて訪ねていったところ、老人達は暇に「花かるた」を引いていたところで「ナンダ坊主か、坊主は御免だ」と花札にことよせて見向きもせないばかりか輕侮して拒絶した。藤花師は尙ほも根氣よく慰問をつゞけてみんな集つてゐる傍らで歌謡曲など口誦んで歸ることを半歳つづけた。その中に一人が「先生！うちの子供の廻向してもらえないか」また一人が「死んだ家内を弔つてやつてくれまいか」とぼつ／＼親しげに話かけ相談をもつてくる

ようになつた。「もうしめた」といふところで「それでは今日は話をして歸りましょう」といふことになつて遂に宗教講話をすることに成功したといふのである。

それから教會のサンデースクール音楽團を率いて慰問したことが大へん喜ばれ爾來此の養老院を恩賜記念館と改稱せられた今日では、日本内地からハワイへ來る有名な歌手、映畫タレントも必ずここを慰問するようになったといふ其の慰問の糸口をつけているのである。

私は其の餘興も行はれるといふ禮拜堂を訪ねたが佛壇には阿彌陀如來立像が安置され香華が捧げられており徳川家達公筆の「和神」といふ扁額が壁間に掲つていた。

此の藤花師の養老院教化に賛同せられたのか淨土宗別院理事長山崎昇氏の夫人喜久代女史が釀金し婦人のみの養老院建設を企劃して着々進捗せしめ行く／＼は淨土宗の教化をそこにはらうといふらしい。

## 五、バザー、カーニバル

ハワイ淨土院の維持には内地と同じく信者からの布施

施物が納入せられる外に檀信徒即ち會員からの會費が納まるらしい。然し本堂を建設し青年會館を新築しようといふ特別資金をうる爲めにバザーが行はれ其の利益金がそれらに充當せられる。バザーの方法にもいろ／＼あるらしいが、その中の一、二特異なるものを擧げてみる。

ハカラウの淨土院では間宮夫人が白、黒、緑などのテープを利用してハンドバック、買物籠から始め大小さまざまな高級手藝品をつくる特技をもっている。其の作品を見て遠近から習ひに來る人もあるし、またそれを欲しがって賣つてほしいと願出るものも多いが間宮師は普通では賣らなくて、是れを信者提出のもろ／＼と共に教會主催のバザーに陳列し、其の利得を教會運営資金に廻はしている。

また此のハカラウ淨土院には新亡精靈のあつた家から追善供養の爲めにお米の袋(約二斗)が澤山寄贈されてくる。其れを十夜法要に「卷壽司」にする。信徒から日本産の海苔、椎茸、高野豆腐、干瓢などの寄進があり、當日は朝早くから婦人會員が奉仕してお米を炊き、グの味付、そして海苔卷をする。出來た卷壽司三本一包みを

一ドル頒布する。其の味はひが日本の郷愁を呼ぶものか飛ぶように賣れて教會運営資金になるといふ。

プウネネ淨土院では小豆を入れた赤飯をつくり、ビニールの袋に詰めて頒布するが是れも同じく日本の味を偲ぶためか多量に賣れて行くといふ。

日本では想いもよらぬ資金集めにカーニバルがある。

ハレイワ淨土院を訪ねたが其の日は其の土地のカーニバルであつて、彼岸法要をつとめる夜には大衆がそこに出向くから今夜の法要はとり止めて、カーニバルの見物に出かけようと主任白鳥舜成師に誘われる。夜七時すぎに白鳥夫人も交えて三人で出かける。

大きな廣場には電光がさんざめいており人数も相當に集つてゐる。綿菓子、飴、果物、人形、パチンコ、射的、ブランコ、そして中央に子供をのせて廻轉し乍ら行くもの、そして電光を放ち乍ら空へクル／＼昇つたり降りたりするメリーゴーランド。その片隅に生花展覧、電機製品陳列など大體内地の夜店の大掛りといふもの。處が只一つ内地に見られないのが焼鳥である。貨物運搬に使はれるコンテナの大型二臺に、鶏の羽毛を抜きとつた

丸裸が五、六千羽つまつてゐる。そして近くに側が二米で十米ほどの長さの大きな火鉢に炭火がコン／＼焚き上つてゐる。その上に鐵棒が數十本並べられ鐵棒には金網が付せられてゐる。裸の雞は眞中をタテに裂かれており、そこえ鹽、コショウ、調味料を加え一羽づつ鐵棒にしばられる。一本に五、六羽しばられると其の鐵棒は廻轉して鶏は焼かれて行く、其の燒鶏を長い列をつくつて買つて行く、一羽は大體一弗五〇セント(約五〇〇圓)位らしい。それが焼かれるのを待つていて飛ぶように賣れて行く。白鳥師に聞くと、燒鶏をしているのは商賣人でなく篤志家の奉仕行だといふ、かくて此の夜店全部の純利益が二晩で約一萬弗(三六〇萬圓)であるが、此の収益でもつて、此の地方に建設される體育館の寄付に充てるといふ。

白鳥師のハレイワ淨土院の本堂は稍や古くなつてゐるところへ近くに州立公園が出来るので、それにマッチして新しい本堂や青年會館を新築したい。そこで此のカーニバルを淨土院新築のために催してもらふことにもなつて確か十一月にハレイワで一晩カーニバルが催されると

いふ。この賣上げ代金五千ドル(百八十萬圓)を豫定しているが、此れを兩三年續けることによつて本堂が完成するでしようといふ。燒鶏で本堂が建設されるなど内地ではとても想像もつかぬこと乍らハワイでは何の不思議もなく着々進められているところが妙である。

## 六、大佛建立

マウイ島のラハイナは水の清らかなといふ意味の地名で、カメハメハ大王宮殿のあつた古都で近くのカナパリ海岸はワイキキに次ぐ遊園でシャラトルマウイ、ラハイナヒルトン、ローヤルラハイナなど世界第一級のホテルが並列しゴルフ場としても三十六ホールあるのは恐らく世界第一の施設でここで遊ぶため米本土から飛行機でここに來て一泊三五—一〇〇弗のホテルに滞在するといふことである。日本からもここにホテルを經營する爲め乗込んで來た湘南の財閥が自分の住宅を探し求めている折、縁があつてラハイナ淨土院の境内に居を構えることになり、大へん喜んで信仰と其の御禮の意味も加えて鎌

倉大佛像を模した像を境内に建立してくれたのである。ハワイに於ける唯一の大佛として今では名勝に數えられている。ラハイナ淨土院は海岸にあつて波が打ちよせる度毎に砂を運び來り毎日少しづつ宅地が造成せられ其の新成地に何軒かの借家を建てて収益をあげるようになってゐる。借家人の中に外人醫學博士も交つていて寺へ協力していてくれるといふ。

そして本堂の左側に納骨堂をも建てるべく地鎮式もすませている。ところで九月二十九日午前一〇時から私はこの淨土院の彼岸法要、信徒とのパーティをもちませ主任の原源照君に送られて次の會所であるウィルク淨土院(今村諦全師)へ、そこで午後三時から法要、そしてパーティを催されていたところへ、電話がかかり「ラハイナ淨土院の本堂が焼けた」といふので原君は驚き急ぎ歸つて行つた。

後で聞けば本尊は奥様が火中へ飛込んで救い出したこと、浮浪人の放火らしいこと、緊急理事會で納骨堂建設を延期し本堂復舊にとりかかることになつたといふ。私に歸朝して宗務廳、知恩院へ報告するや早速御見舞狀と

共に知恩院から多額の義援金が送られるし、ラハイナ地區で一般から寄金が集まりはやくも淨財三萬ドルが出来、早速設計デザインをホノルルの河合了勝君に頼み着々工事を進め今春三、四月には落慶するらしい。火災の禍が新築の慶事に轉じたことは喜ばしいことである。

## 七、若い開教使

ハワイ開教使には名護僧正の六十餘年、日野僧正の四十五年、藤花、間宮、北島兄弟、今村、白鳥の各僧正の三十七、八年歴というのがあつて相當な功績を擧げていられるが前記の原源照君の如き若くしてジャン／＼發展せられてゐる他、カーチスタンの森本信壽君とハビイの菊池晃雄君は共に獨身ながら信者からの支援がものすごい。また浦上憲成君はうら若い奥様と二人で信徒と親密に接し乍らの教線擴張でコロア淨土院を近々改築しようと勵んでゐる。

若くはないがコハラ淨土院北島良雄師は老練でハビイ淨土院と協力して本堂新築を目指していられ奥様はまた

吉水流詠唱を通じて婦人方への教線を伸していられる。

弟の北島昌雄師はカパア淨土院主任であるが來任歴が古いだけに地方での信用も厚くカワイ島移民百年開發副委員長として記念事業の數々をしたり、私が來たといふのでカワイ島各宗開教使の十餘名を海拔三四〇〇呎のワイメアに召集してピクニックを催し、親善を温める元締役をつとめていられる。

林明春師は靜養中で開教第一線を退いてはられるが囑託として淨土宗別院に事ある時は顔を見せられ、太田邦雄師も同じ囑託で勳六等を受け共々別院へ盡力せられてゐるのはうれしい。

マウイの新保義道君は現在のプウネ淨土院の土地が信徒移動で取り残されたような状態に陥つたところから市中の公立學校の近くに廣い土地を求め自分の働くラデオ放送の収益もつき込んで既に地鎮式をあげ近く本堂を新築し更に日本語學校、女子學園を復興しようといふ。

ハワイの開教使の令息は大抵米本土の大學を卒業し或はエンジニア、或は軍人、或は醫師となつて新天地を招いていられるが、ハワイの開教を引繼ぐ人材が少ない中

にワイルクの今村諦全師は次男裕全君と協力し日曜學校、日本語學校を始め開教全般に努力せられている。またホノルルの井上修圓尼は夙に椎尾縁山法主の特別勸化を蒙り唯一人の有髮尼僧として活躍せられているのも見通がせないのである。

ハワイに渡つてみて現在活躍しているのは日系二世、三世であり四世がはや成長している。一世、二世には日本語の法話が内地同様に聞いて頂かれ感動を與え得るが、三、四世には英語、それも現代米語でなければ通じないのである。ヒロの中村良觀君は奥様が二世であり英語は流暢である。それだけに郡參事長（市長）本村春一氏（二世）を特別信徒となし更に日系二、三、四世に人氣がある。

今後の教線擴張をハワイに望むならば英語を充分にマスターするは勿論、佛敎語、淨土教義をハワイの人々に理解せしめうる語學の研究をしておかねばダメである。一宗の敎學當局に是非御一考を煩はせたく、別に出来るなら全日本佛敎會でかかる研究機關を設置して頂きたいものである。

淨土宗務廳で元祖大師七百五十年遠忌記念に英譯『淨

土宗聖典』を刊行せられたことは大成果であつて現在非常に珍重愛用せられていることを申添えておきたい。

因に申す。私は京都大學小葉田淳敎授の照會でハワイ大學を訪ね。拙著「法然上人傳全集」と「同繪傳の研究」を提上し敎授にあひ、研究室を親しく巡閲したが、布哇大學文學部には佛敎學の講座があり稻田敎授が擔任され相當の學生を容れているし日本史學には篠田、阪卷の兩敎授がいる。何れも日系二世であるが、阪卷博士は「私の従弟に淨土宗の市川市源心寺松岡隆備師がいます」など云つていられ親しみを覺えしめたのである。そして私は三敎授に招かれて珍らしいハワイ料理を頂くことになつた。尙ほ新保義道君の信徒古賀夫人（博士）も東西文化センターに在籍せられているからハワイ大學を訪ねてみて淨土宗關係者の多いのに心を強うするものである。

若い淨土宗侶へお勧めする。決心してハワイ傳道に飛躍せられよ。日本からの傳道師をなつかしんでいる。ハワイは空氣の澄んだ氣温の高い常夏であつて而かも爽かな土地であり果物の豊富な住みよい土地である。

（本大學敎授 文學博士）